

中井だより

中井やまゆり園



ピクトグラムを通して

生活第一課 海寮長 竹迫 篤司

皆様こんにちは。4月に厚木保健福祉事務所から転入してまいりました生活第一課海寮の竹迫と申します。海寮に配属され、間もなく半年が経ちますが、まだまだ慣れないことが多くご心配をおかけすることもあると思いますが、よろしくお願ひいたします。

中井やまゆり園は、わたしが新規採用として初めて配属された職場で、ちょうど旧施設が再整備され現在の建物が出来た大きな転換の時期でした。今の施設が完成した時には、出来たばかりの新しい建物を見て、ここでどんな生活がはじまるのか期待と不安とが入り混じっていたことを覚えています。当時、勤務が終わった後に同世代の仲間と集まって、こんなことをしたい、あんなことをしたいとよく話し合っていたことを思い出します。

さて、話は変わりますが、コロナ禍という中で、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。みなさんは、開会式で披露されたピクトグラムのパフォーマンスをご覧になりましたでしょうか。ピクトグラムは、前回の東京オリンピックの際に、世界中の人々が言語を問わず誰でも理解ができるようにと開発され、これを機に、その後世界中に広まったという説もあるようです。そんなピクトグラムは、今では非常口の案内、トイレやエレベーターの案内など、わたしたちの生活の中で何げなく目にする機会も多くなっています。ピクトグラムは、外国の人たちだけではなく、お年寄り、子ども、障害のある方たちなど誰にとってもわかりやすいことに特徴があります。この発想は、わたしたちが利用者のみなさんを支援するうえで、とても大切な視点だとあらためて気づかされた思いがします。

わたしたちが支援している利用者のみなさんは、言葉で自分の気持ちを表現したり、理解したりすることが苦手な方たちです。きっと不安なこともたくさんあるのだと思います。ピクトグラムのように視覚的に情報を伝えるということだけではなく、どんなことに不安を感じていて、どうすればわかりやすく伝えることができるのかを考えるという視点が大切なのだと思います。利用者のみなさんに安心してもらえるようなわかりやすい支援を心掛けなくてはいけないなど、あらためて考えさせられました。